不条理の中で マタイ26:59-64	2026.11.1、丘の上、NO.784 春日部福音自由教会　山田豊

自分には思いもつかないところで、困った出来事が起きる時代です。最近頓に聞かれる「個人情報漏洩」のニュースは、私たちを言い知れない不安に駆りたてるものではないでしょうか？まことに私たちは不条理の中に置かれている存在です。そんな中にいれば、抗議をしたり文句の一つでも言いたくなるものだと思います。

弟子と過ごしたいわゆる最後の晩餐の後、祈るためにゲッセマネの園に行かれたイエスは、そこで捕らえられます。そして引き立てられ、十字架刑の執行の命を受け、ゴルゴタの丘で命を落とされたのでした。日にちをまたいで10数時間という短い間に、裁判が行われたのです。福音書を読むと、この裁判は、ユダヤ人側で３回、ローマ人側で３回行われたことがわかります。本日の場面は、以前大祭司であったカヤパの官邸での出来事で、２回目の裁判となっています。

律法学者、長老たちは、最初からイエスを死刑に定めようとして、偽りの証言をする者を集め、彼らにいろいろ言わせました。しかしお互いの話がかみ合わず、その証言は一致しませんでした。61節にあるように、イエスは神殿を壊して３日目に再建すると言われましたが、それはご自分のからだのたとえであり、復活のことを言われたのでした(ヨハネ2:21)。人々には、その意味が分からなかったのです。

イエスが不条理な訴えをされる中で沈黙を通されたのには、理由があります。まず第１は、この裁判自体が不当なものであることを訴えるためでした。日本の法律では黙秘権が認められています。それは、不当な取り調べから守るためであり、この場面と似ていると思われます。第２は、預言の成就です。苦難のしもべは、毛を刈られているときに羊のように黙っている(イザヤ53:7)者です。ここに描かれているしもべの姿は、自分に成就していると、イエスは知っておられたのです。そして第３は、イエスご自身がメシア、キリストとして人々の罪を負って死ぬという、神のミッションを全うするためでした。イエスが口を開いたのは、ただの一度だけです。「あなたはキリストなのか？」と尋問されたとき、その通りであると答えた時でした。

このような不条理の中で、イエスはご自分がキリスト、救い主であることを証しされました。私たちもまた、このように歩めるよう、神のみ心を悟って歩んでいきたいのです。

引用聖句

ヨハネ 2:19-22　イエスは彼らに答えられた。「この神殿を壊してみなさい。わたしは、三日でそれをよみがえらせる。」20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てるのに四十六年かかった。あなたはそれを三日でよみがえらせるのか。」21 しかし、イエスはご自分のからだという神殿について語られたのであった。22 それで、イエスが死人の中からよみがえられたとき、弟子たちは、イエスがこのように言われたことを思い起こして、聖書とイエスが言われたことばを信じた。

イザヤ 53:7　彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

イエスの裁判

ユダヤ人側での裁判

① アンナス(前の大祭司) やかんの非公式な尋問、事前の準備ともいえる
② カヤパ(現大祭司) イエスは自らをキリストと認めたことで、冒涜罪で死刑の判決が下された
③ 最高議会(サンヒドリン) 夜明けの公式判決、改めてイエスを罪あるものとし、死刑執行権を持つローマ総督に引き渡す

ローマ人側での裁判

① ポンテオ・ピラト ピラトは無罪であると判断したが、ガリラヤ出身であることから、ヘロデのもとにイエスを送った
② ヘロデ・アンティパス イエスの奇跡を見たいと思って尋問したが、イエスは何も語らなかった。嘲弄して豪華な着物を着せ、ピラトに送り返した
③ ポンテオ・ピラト イエスが訴えられた理由は、冒涜罪から国家反逆を企てた罪に変わっていた。ピラトは宗教指導者や人々の声に押され、死刑(十字架刑)として引き渡した。

細野正文(ほその まさぶみ)

明治 3 年 10 月 15 日〈1870 年 11 月 8 日〉 - 1939 年〈昭和 14 年〉3 月 14 日)は、明治期の鉄道官僚。日本人唯一のタイタニック号の乗客として知られる。細野は鉄道院副参事(現在の国土交通省大臣官房技術参事官に相当)を務めていた 1912 年、第 1 回鉄道院在外研究員としてロシア・サンクトペテルブルク留学の帰路にタイタニック号に乗船した。

＊お孫さんである細野晴臣氏のお話が掲載されています

ナショナルジオグラフィック

https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/20120330/304032/